



# 人間の復興大学 創刊号

2014年7月4日（金）発行：編集委員会

## いのち皆、生きらるべし



学長の挨拶と理事の紹介

### ご挨拶（開学式にて）

学長：畠山 文裕

私どものごあいさつは、皆様広く一般市民に対する「お誓い」でもあります。

この大学の「生みの親」は東日本大震災です。この大天災の憤り・怒りの中で生まれました。怒りとは、自然に対する人間の奢（おご）り・傲慢（ごうまん）であり、人間に対する「さげすみ・軽視・見くびり・侮蔑」という現実に対する怒りです。今の日本の現実に対する怒りです。

では、人間の「復興」とは何でしょうか？それは人間の「尊厳」を取り戻すことに他なりません。人間ひとり一人の尊厳の復興なのです。

民主主義国に於いて、人間は差別無く平等です。人間の復興とは、まず「一人ひとりの生命を尊ぶこと」であり、一人ひとりの「自由」と「基本的人権」が犯されず保障されなければなりません。

自由とは「思想・良心・信教の自由」、そし

て「一切の表現の自由」を保障することです。これが「人間の復興」です。

この事業の肝心要は継続することです。むのさんは「続けることがエネルギーを生む」とおっしゃっています。この大学を続けるためには、「市民のための、市民による」学舎・塾・寺子屋に育てることが大切・基本と考えます。皆様の叱咤（しった）激励をよろしくお頼みします。

この「開学記念講演」に、むのたけじさんをお招きできたことを良き因縁と喜び、感謝しております。（5月10日）



### “人間”を取り戻そう！

机を叩きながらの熱弁

5月10日（土）開学式&記念講演への参加者は330名余りでした。

ジャーナリストむのたけじ（99歳）さんは1時間半にわたり、原稿無しで、熱弁をふるい、「人間らしく生きるため、今こそ自分自身に責任と誇りを持とう」と訴え、多くの聴衆に感動を与えて下さった。

場所は「岩手県公会堂」大ホール。ここは昭和3年以來、歴史的な催し物の会場になってきた。むのさんは40年前に「ベトナム戦争に反対する集会」でジャーナリストの故・岡村昭彦氏と一緒に、この演壇に立った時のことを語って下さった。会場はびっしり満員であったとのこと。



### 開学記念講演

今回の聴衆に向かって、むのさんは「一番残念なのは若い人の姿がほとんど見られないこと」と言われた。私たち関係者は深く考えさせられることである。ポスター貼りやパンフレットの配布で各方面を訪問して宣伝したが、30代40代の方々のほとんどは、むのさんの事を知りませんでした。

こういう時代には英雄待望論が出てくる…何でもひとさま頼みでは救われない…自分で努力するしかない…「宗教」は人を救ったか？…自分は「かけがえのないもの」なんだ…たった一度の人生を生きる責任と誇りを持って…。

むのさんは新聞記者として太平洋戦争に加担したとの反省から、敗戦後すぐに退職して、その後は一貫して戦争反対を訴えている。

### 自分を大切にする

私たちにとって特に印象的であったことは、むのさんの「勉強力」である。90歳頃から、子供を育てる幼稚園や保育所の先生方や若いお母さんに講演を頼まれるようになって「子育て」についても勉強し始めて「眠れ、良い子よ」というのは間違っている、と気が付いたという。

むのさんのお話から私たちは、乳幼児期の「成長力・学習力」に希望があることを再確認させられた。

また地元の中학생や高校生との「懇談」で、地域の問題を話し合ったむのさんは若い世代に大きな期待を寄せている。

そのような経験から、毎日の生活の中で身近な人達と、特に若者を「斜め上から見下ろす」のではなく、「まっすぐに見つめ合う関係をつくっていきましょう」お互いが対等なんだ、と呼びかけられました。

人間の復興「大学・教育・教授と学生」の在り方を模索している私たちの世代に多くの示唆を与えていただきました。

また「休耕田」や「特攻隊」の問題にも時間を割いて述べられました。「家族関係・仲間作り」、「老・壮・青の3結合から幼・少・青・壮・老の5結合へ」など、詳しくは御著書をご覧ください。

---

※ 今回の記念講演の内容は90分間で全てをお伝えすることはできません。どうぞ、むのさんの著書を読んで下さい。また、周りの方々、特に若い方々にお伝え下さい。

開学式の会場入り口で「書籍販売」をしていただいた「善隣館書店」に感謝申し上げます。多くの方々がむのさんの著書をご購入下さいました。

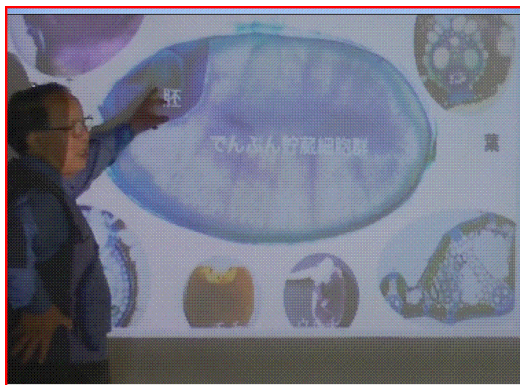
第1回「講座」「イネの種子…つくりと  
はたらき」6月14日（土）参加者25名。



「教授」加藤俊一（しゅんいち）さん

加藤さん宅のお庭は一寸した「植物園」  
です。お近くの方はお庭を訪問してみ  
てください。加藤さんが「植物」育成に  
注いできた情熱を伺い知ることができます。

植物は知恵を持って生活している



お米を磨りガラスで薄くして、  
プレパラートに乗せて顕微鏡で覗く

お米を普段食べているのに、お米その  
ものを観察する機会がない。（小中高の学  
校教育では？）各家庭でも学校でも手  
軽に「お米の発芽」を観察できる！

お米の姿を観察したい。どうしたら良  
いか？薄く切ってプレパラートにしたい  
が、乾燥したお米はカッター・カミソリ  
でスライスすることができない。デンプ  
ンが割れてしまう。誰もやったことが  
なかったのだから、…。「曇りガラ  
ス」のざらざらの

面を使って…。磨り板ガラスで「コメ  
擦り」をして、薄くしたい！

米粒の中の細胞を観察することは不  
可能と言われていて、誰もやったこと  
がなかった。大阪で生物教育学会があ  
った時に皆さんに紹介したら、大騒ぎ  
になって、…。その後、全国から電  
話で問い合わせが来た。

生物学は（も）面白い！

お米の粃（もみ）を手にとって、殻（か  
ら）をむく。脱穀（だっく）とは、収穫  
した穀類、稲扱きとも。続く、粃殻を  
はずす作業を脱稈（だっぼ）と呼び、  
脱稈を含めて脱穀ということもある。

Q. 粃殻を取り去った「玄米」は発芽  
しますか？

A. 粃殻が無くても発芽する。

玄米を「湯冷まし」で浸せば、適当  
な温度に保つと発芽する。水道水で  
はカルキで、細胞が死滅することがあ  
る。

米粒にも「芽と根」が備わっている！

米粒を「染色」しないとよく見え  
ない。今日はヤヌスグリーンで染めて  
、顕微鏡で見る。（倍率は10倍で充  
分）

Q. ウルチ米とモチ米とでは染まり  
方・色が違うのは何故？

A. 含まれているタンパク質の種  
類が異なるから発色が違ってくる。

顕微鏡やプレパラートなど「観  
察用具一式」は盛岡スコール高校から  
お借りしました。





### 【アサガオの変わり種】

加藤さんは自宅で40数年間「アサガオ」の交配を続けて来られて、多くの品種の種をお持ちです。ご自分でアサガオを育てて見たい方はどうぞ加藤俊一さん宅に行き、種を貰ってください。

アサガオの「変わり種」として、白い葉っぱの（葉緑体のない）アサガオや巨大な朝顔を写真で紹介して下さいました。加藤さんのお宅には今でも朝顔が花を咲かせています。日照時間を管理・操作することにより「短日性」のアサガオを何時でも必要な時に（学会の時などに）咲かせることができます。



「生物屋の楽しみ」

### 後援会費は「助成金」で大学へ

「人間の復興会議」を母体に「大学の後援会」が作られておりますが、開学式当日に入会いただいた方は42名でした。

後日に「後援会」に入会下さるご希望の方が8名で、第1回「講座」の際に入会下さった方が2名でした。次の「講座」の案内通知を希望されて記名して下さった方々が30数名おられます。

「後援会員」は100名以上を目標に致しております。当大学の事業の趣旨に賛同いただき、長く続けることができるよう、多くの方々からの援助・協力をお待ちしております。

なお、大学の理事9名と有志数名からは

大学へ直接に寄付をしております。

これらの「後援会費からの助成金」、「授業料・受講料」、寄付金などは「大学の事業」の諸経費に充てられます。

### 【事業について】

広く皆様から「教授」を募集しています。

毎月「講座」を開設する予定ですが、未だ「予算」を作成するには至っておりません。大まかな予算として、会場費や資料代として、1回の講座に約8千円が必要となります。（通信費を含む。）

「東日本大震災」の被災地での「講座」も開設したいと願っています。どうぞ関係の皆様にご指導・ご協力をお願いします。

### 次回の「講座」は7月12日（土）13:30～

会場：日本基督教団 内丸教会

「教授」医師 坂 正毅（まさたか）さん

### 講座「在宅医療の現場から」

坂さんは元岩手医療生協理事長、現在も川久保病院で内科の診療をされています。長年にわたって医療現場に携わってこられたご経験から、ご提言をいただきます。

### 第3回「講座」は8月9日（土）

「小さな野菜畑・こびる食堂」代表：小島進さんの講座：「現代の『食』を考える」

会場：日本基督教団 下の橋教会

### 第4回「講座」は9月13日（土）

小山 富男さんの講座：「民間外交を通じた日中問題の要（かなめ）」場所：未定

「人間の復興大学」本部：

岩手真宗会館内

「会報」発行：編集委員会

電話：019-635-9161

岩手県盛岡市東仙北二丁目2-45

URL：<http://re-human.net>

※ 皆様からの感想やご意見をお待ちしています。